



佐竹典明議員

里山整備と林業の現状課題は

町長 林業技術者の育成や

里山保全に支援していく

■町内産の木材利用を

佐竹 公共施設などへの町内産の木材の活用をすすめてほしいと思うがどうか。また、木造は子どもたちの健康や精神衛生上も非常に好ましいと聞きます。ぜひ利用をすすめてほしいと思います。

町長 木材の利用は、伐採して乾燥し製品になるまで1〜2年はかかります。集材などの必要経費も考え、前向きに検討していきます。

■林道の整備や山林の

地籍調査を

佐竹 間伐や木材の伐採など施業に必要な林道の整備や山林の地籍調査について、早い時期に取り組むべきだと思いますがどうですか。

町長 地籍調査までは難しい面もありますが、境界確認への補助制度もありますので、費用面も考え検討していきます。

■里山の整備が必要

佐竹 ナラ枯れが拡大していることや、熊が住宅地にまで出没する状況などから、里山のはたす役割を考えると保全整備しないと里山の生態系にも影響するといわれています。早急に取り組む



里山の整備（あたご山）

■森林組合の重要性

佐竹 森林組合がはたしている重要な役割を認識し、緑の雇用制度なども利用して安定して働ける林業従事者を増やしていくべきと考えますがどうですか。

産業振興課長 この制度は森林整備等の林業に従事するための必要な技能や技術習得を支援し、林業の担い手を育成する事業です。森林組合では、平成14年から取り組み、5名の林業技術者を育成しました。定着してほしいと思います。

農山漁村活性化プロジェクト支援事業などによって保全の取組を支援していく考えです。

べきと考えますがどうですか。
町長 里山、農山村の保全は、地域住民が主体の中山間地直接支払制度や、荒廃農地を畑地として整備する